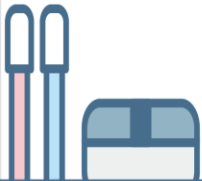


奈良県立医科大学附属病院における 医師の働き方改革推進会議 実施報告

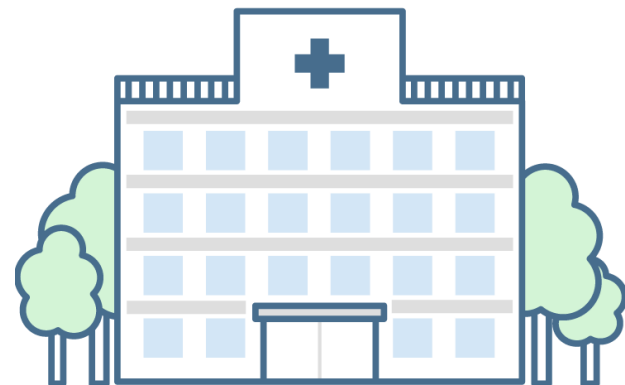


目次

1. 医療機関の概要
2. 意見交換会を開催するに至った背景
3. 意見交換会に向けた準備
4. 意見交換会(当日)
5. 実施後アンケートと今後の展望



1. 医療機関の概要



医療機関の概要(令和6年2月1日現在)

奈良県唯一の特定機能病院であり、高度、先進医療を担う基幹病院を担い、奈良県医療の最終ディフェンスラインとしての機能を果たしている。

基幹災害拠点病院としても災害医療にも万全の体制を整えている。

病床数:992床

職員数:2,676名

救急車受入台数:6,258台/年(令和4年度実績)

指定:高度救命救急センター、ER救急、第一種、第二種感染症指定医療機関、エイズ中核拠点病院、精神科救急医療施設、都道府県がん診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センター



2. 意見交換会を 開催するに至った背景



医師の長時間労働の実態(働き方の実態)

令和4年度以降、当直体制の見直しを実施

体制を宿日直と夜間帯及び休日の勤務として二極化し、現在は約半数の診療科で休日夜間帯においての勤務に移行している。ただ、夜間の勤務明けに帰宅する時間は状況によってばらつきがあるため、超過勤務が長時間となる診療科も複数存在している。

タスク・シフト/シェアに関する取組状況

令和5年3月にタスク・シフト/シェア部会(方針を決定する場)を設置し、関係者ワーキング(詳細内容について議論する場)を実施した。

特定の診療科で医師から医療技術職へのタスク・シフトは完了しているが、その他のWGは第1回のみ開催と、スムーズに進んでいない状況

意見交換会に期待すること

関係者のみでの実施ではなく、「医師の働き方改革推進会議サポートプロジェクト」の支援内容の1つである司会者の派遣を活用することで、より前向きな意見交換が行われることを期待



会議開催までの背景・課題

3. 意見交換会に向けた準備



意見交換会に向けたコアメンバーとの調整

事前打合せ①

【出席者】

奈良県立医科大学(人事課担当者)、厚生労働省、事務局

【打合せ内容】

- ・医師の働き方改革推進会議サポートプロジェクト及び意見交換会実施までのフローの説明
- ・司会者派遣有無/意見交換会開催日
- ・働き方改革の取組状況
- ・意見交換会のテーマ/議題/参加者/プログラム についてディスカッション

事前打合せ②

【出席者】

奈良県立医科大学(人事課担当者、産婦人科医)、司会者(外部より招聘)、厚生労働省、事務局

【打合せ内容】

- ・意見交換会のテーマ、議題
- ・参加人数/ディスカッショングループ分け
- ・ディスカッションの内容/方法
- ・意見交換会当日のプログラム構成の検討
- ・事前学習資料、スライド資料の検討



会議開催に向けた準備

4. 意見交換会(当日)



開催概要

開催方法:対面形式

開催テーマ:産婦人科業務の現状を見つめ、各職種の専門性をより発揮できる職場環境を考える

意見交換①:業務棚卸シートによる業務の振り返り

意見交換②:産婦人科業務内容やタスク・シフト/シェアに向けた課題とその解決策

参加者の人数/属性

【参加人数】

16名(教授を含む医師:8名 看護師:3名 助産師:3名 事務部門:2名)

【ディスカッション時のグループ分け】

各部門の勤務状況・勤務環境改善等の取組状況を踏まえ、多様な視点でディスカッションを行うために多職種を含めたグループ分けを実施

具体的には、参加者を2グループに分け、各グループに産科医師・婦人科医師・看護師・助産師・事務部門の担当者が参加するように編成

【プログラムとタイムスケジュール】

No	概要	対応者
1	開会・司会者自己紹介	司会者
2	挨拶	副院長
3	テーマ発表・ミニレクチャー	司会者
4	意見交換①（10分）	参加者
5	発表①（5分）	参加者
6	発表①への講評・意見交換②の説明	司会者
7	意見交換②（15分）	参加者
8	発表②（5分）	参加者
9	質疑応答・感想	司会者、参加者
10	全体講評	院長
11	閉会・アンケート	司会者
12	終了	

当日のプログラムの進め方

【テーマ発表・ミニレクチャー】

テーマ：産婦人科業務の現状を見つめ、各職種の専門性をより発揮できる職場環境を考える

▼進行(司会者が実施)

- ・司会者から意見交換会のテーマを発表し、ミニレクチャーを実施
- ・ミニレクチャーでは、産婦人科業務の特殊性や産婦人科医の勤務実態に関するデータ、医療関係職種間のタスク・シフト/シェアが可能な業務の一例を紹介
- ・資料作成にあたっては、厚生労働省がいきいき働く医療機関サポートWebにて公開している「医師の働き方改革解説スライド」を一部活用

【意見交換①：業務棚卸シートによる業務の振り返り】

▼進め方

- ・産婦人科業務でのタスク・シフト/シェアの現状を共有するために、産婦人科業務内容を「産科外来」「婦人科外来」「産科病棟」「婦人科病棟」「総合周産期医療センター」の5つに分けたシートを用意し、グループでシートを選択して、自身の職種が担当する業務について4つの職種ごと(医師・看護師・助産師・事務)に色分けした。
- ・シールを貼り付け、各グループ内で業務の棚卸しをしながら、意見交換を10分間実施

当日のプログラムの進め方



ポイント

職種別にシールを色分けして貼付することで、一目で業務分担が分かるようにし、振返りがスムーズに行えるよう工夫を行った。

【意見交換②:産婦人科業務内容やタスク・シフト/シェアに向けた課題とその解決策】

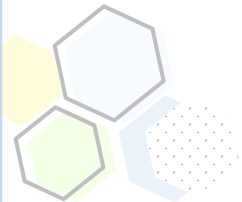
▼進め方

- ・意見交換会におけるメインディスカッションとして15分間実施
- ・各グループで出た意見(課題・解決策)は付箋に記載して、記載用紙(A3サイズ)に貼付
- ・発表は、両グループとも実施



ポイント

課題と解決策に分けた付箋貼付シートを作成し、視覚的にも整理できるように実施



当日のプログラムの進め方

【各グループが使用した業務棚卸シート】 ▼グループA:産科外来の業務棚卸シート

#	現在の業務		現在の実施者	
	項目	内容		
0	診察前の予診	診察前の予診を行う 医師が診察をする前に、診察する医師以外の者が予備的に患者の病歴や症状などを聞いておく（定型の予診票等を用いて機械的に事実を聞く）		
1	検査手順の説明	検査等医学的行為に関する説明を行う（放射線検査等の日常的に行われる検査において、所定の文書に基づく検査の機械的・定型的な説明等）		
2		医師の発行する各種書類の説明・同意書の受領を行う		
3	妊婦健診	血圧測定を行う		
4		尿検査を行う		
5		体重測定を行う		
6		腹囲、子宮底長の測定を行う		
7		術前に必要な血液検査（血液型、血算、血糖、各種抗体、感染症等）ために採血を行う		
8		子宮頸癌健診を行う（問診、視診、内診、子宮内膜細胞診、子宮鏡検査等）		
9		経腔エコー検査を行う		
10		経腹エコー検査を行う		
11		NST（ノンストレステスト）を行う		
14		75gOGTT（空腹時傾向ブドウ糖負荷テスト）を行う		
13		感染症検査を行う		
14		低リスク妊婦の妊婦健診（一部）・妊産婦の保健指導を行う		
15		ハイリスク外来	母体疾患や既往歴に起因する妊婦前相談外来	
16			不育症例の妊婦予後改善のための予防的治療、習慣流産に対する免疫療法を行う	
17	胎児不整脈や胎児胸水等に対する子宮内胎児治療を行う			
18	児奇形などを精査するスクリーニングエコー外来を行う			
19	小児循環器科と合同で行う胎児心エコー外来を行う			
20	遺伝外来を行う			

22	薬の説明、薬の指導、投与	処方薬剤情報、お薬手帳を用いて患者に応じた内容の服薬指導を行う		
23		妊婦健診で感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与を行う		
24		予め特定された患者に対し、医師の事前の指示の下、事前に取り決めたプロトコールに沿って薬剤を投与する（投与量変更・投与方法変更・投与期間変更・剤形変更・含有規格変更等）		
25		効果・副作用の発現状況や服薬状況の確認等を行うための分割調剤を行う		
26	点滴（化学療法以外）	静脈確保を行う		
27		投薬を行う		
28	書類の作成	電子カルテへの医療記録の記載		
29		臨床写真など画像の取り込み		
30		各種サマリーの修正		
31		各種検査オーダーの代行入力		
32		次回診察や検査の予約		
33		病名やDPC情報などの代行入力		
34		紹介状または紹介状の返書の下書き・仮作成を行う		
35		健保会社等に提出する診断書の下書き・仮作成を行う		
36		訪問看護指示書の下書き・仮作成を行う		
37		医療要否意見書（生活保護関連）の下書き・仮作成を行う		
38		傷病手当金意見書の下書き・仮作成を行う		
39		主治医意見書（介護保険）の下書き・仮作成を行う		
40		身体障害者診断書・意見書の下書き・仮作成を行う		
41		障害年金診断書の下書き・仮作成を行う		
42		特定疾患等の申請書の下書き・仮作成を行う		
43		入院の説明	入院に必要なもの、入院生活等について説明（オリエンテーション）を行い、同意書を受領する。	
44			患者又は家族に医師が医学的な入院に関する説明を受けた後、療養上の規則等入院時の案内をオリエンテーションし、入院誓約書等の同意書に患者又は家族から署名をもらい、受領する	
45	研究補助	診療データや症例実績、各種臨床データに関する調査や研究申請書などの事務作業を行う		

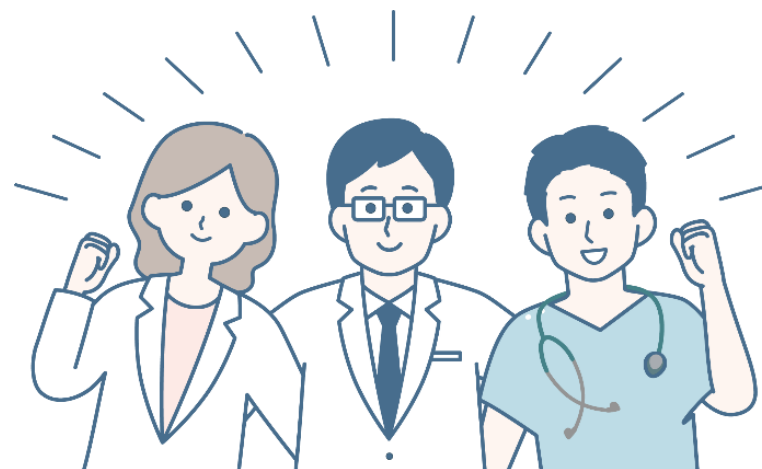
当日のプログラムの進め方

【各グループが使用した業務棚卸シート】 ▼グループB: 婦人科病棟の業務棚卸シート

#	現在の業務		現在の実施者
	項目	内容	
0	モーニングカンファレンス	新入院患者の紹介（産科チーム）や、手術報告を行う	
1	書類の作成	カンファレンス記録や回診記録の記載の代行入力を行う	
2		電子カルテへの医療記録の記載	
3		臨床写真など画像の取り込み	
4		各種サマリーの修正	
5		各種検査オーダーの代行入力	
6		次回診察や検査の予約	
7		病名やDPC情報などの代行入力	
8		紹介状または紹介状の返書の下書き・仮作成を行う	
9		訪問看護指示書の下書き・仮作成を行う	
10		主治医意見書（介護保険）の下書き・仮作成を行う	
11		死亡診断書の下書き・仮作成を行う	
12		採血	採血を行う
13	点滴指示	入院患者に対する点滴の指示を行う	
14	点滴の実施	静脈確保（抗腫瘍薬・血液製剤投与目的以外）を行う	
15		投薬を行う	
16	輸血の実施	静脈確保（血液製剤）を行う	
17		医師の輸血療法の必要性に関する説明の前後で、輸血に関する定型的な事項や補足的な説明を行い（輸血療法や輸血関連検査の意義・解釈、輸血のリスク等）、患者から同意を得る（輸血承諾書への署名を求め受領等）	
18		輸血実施後、副作用出現の有無の観察、異変出現時、医師等への状況報告を行う	
19	化学療法の実施	静脈確保を行う	
20		抗腫瘍薬の投与を行う	
21	薬剤管理	麻薬の在庫管理を行う	
22		薬剤（麻薬以外）の在庫管理を行う	

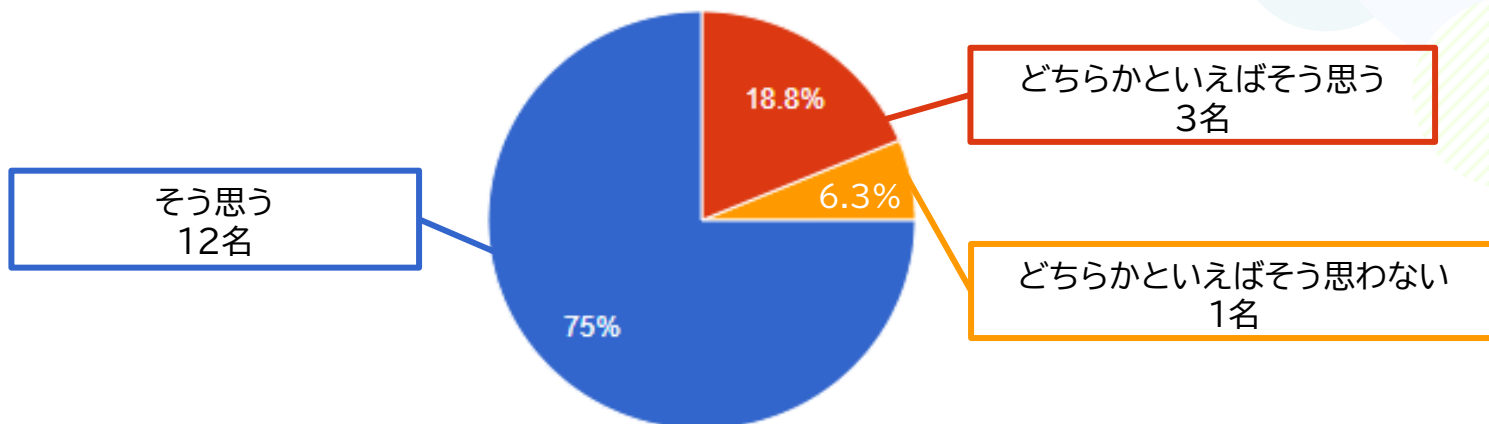
24	各患者への薬の説明、薬の指導、投与	予め特定された患者に対し、医師の事前の指示の下、事前に取り決めたプロトコルに沿って薬剤を投与する	
25		持参薬の電子カルテへの入力を行う（医師が行わない場合は仮入力）	
26		術後痛を評価し、医師に鎮静薬を提案・術前に中止していた薬が術前指示通り再開しているかの確認を行う	
27	当直医を交えたテーブルカンファレンス	患者を病床などとして情報収集し、医師に処方提案や処方支援を実施する・効果・副作用の発現状況や服薬状況の確認・診療録等から服薬内容の確認・多剤併用、検査結果や処方歴、薬物アレルギー情報の確認などを行い、医師に対して情報提供を行う	
28		それぞれの入院患者の1日の経過を、体温表をみながら確認するとともに、当直にあつたての注意点等の申し送りを行う。	
29	当直担当医の管理	医師の当直表の作成などの秘密的な業務を行う	
30	患者搬送	検査等、手術以外の目的で、患者を病棟外へ搬送する	
31		手術室まで患者を徒歩で連れて行く、またはベッドや車椅子で搬送する	
32		転院搬送	
33	家族説明	家族への説明を実施するために、家族へのアポイントを取得する	
34		家族への病状説明を実施する	
35	術前腸管プレバレーション	経下剤内服の意義と方法を説明する	
36	術後疼痛管理	硬膜外カテーテルの抜去を行う	
37		硬膜外カテーテルによる疼痛管理が不十分である際に、他の疼痛管理方法を検討する	
38	創部管理	腹部の創傷管理について説明を行う（ケロイド予防等）	
39		腹部の創の抜糸・抜糸を行う	
40	腹部ドレーン	腹部ドレーンを抜去する	
41		腹部ドレーンの固定テープや被覆材（ガーゼ・フィルムドレッシング等）の交換を行う	
42		患者にドレーンの事故抜去の身体に与えるリスクと、事故抜去が発生した際の患者自身が取るべき対応について説明を行う	
43	膀胱留置カテーテル	術後の排尿トラブルに対して膀胱留置カテーテルの留置を行う	
44		膀胱留置カテーテルを抜去する	
45	術後せん妄	家族・本人へ術後せん妄のリスクについて説明し、必要時身体抑制等の処置を講ずることに同意を得る	
46		術後せん妄のリスクを評価し、予防のための方策やせん妄発生時の対応方法（薬剤・身体抑制等）について検討を行う	
47		せん妄発生時に、適切な身体抑制を行う	
48		せん妄発生時に、適切な薬剤を投与する	
49		病棟の医師や看護師で対応が難しいせん妄患者の対応について、専門家へコンサルテーションを行う	

5. 実施後アンケートと今後の展望

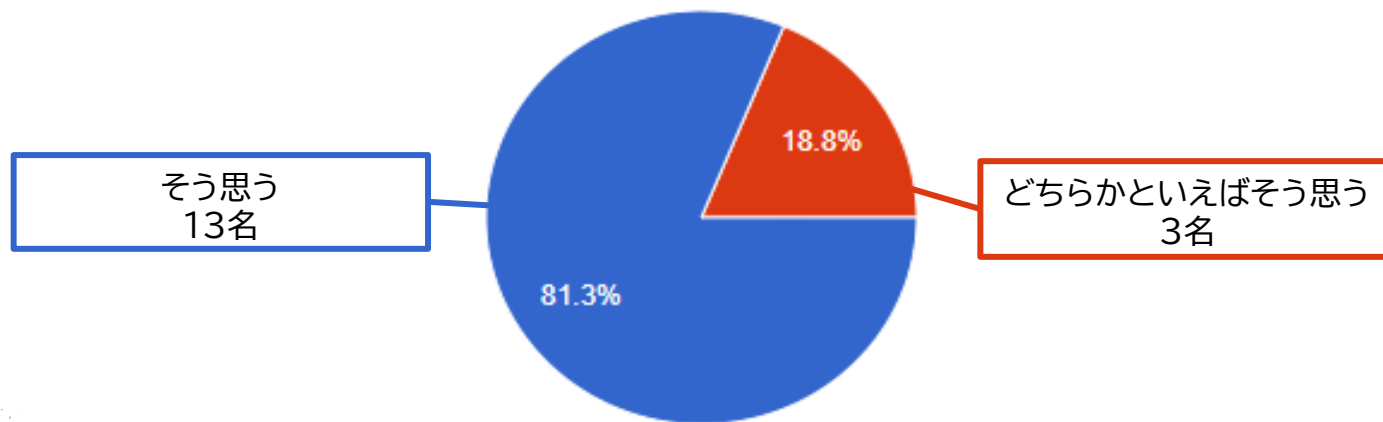


アンケート結果

Q1:本日の意見交換会は、医師の働き方改革に対する産婦人科業務における世代・立場間の受け止めの違いについて、お互いの認識を共有するのに有用でしたか。(回答数:16)

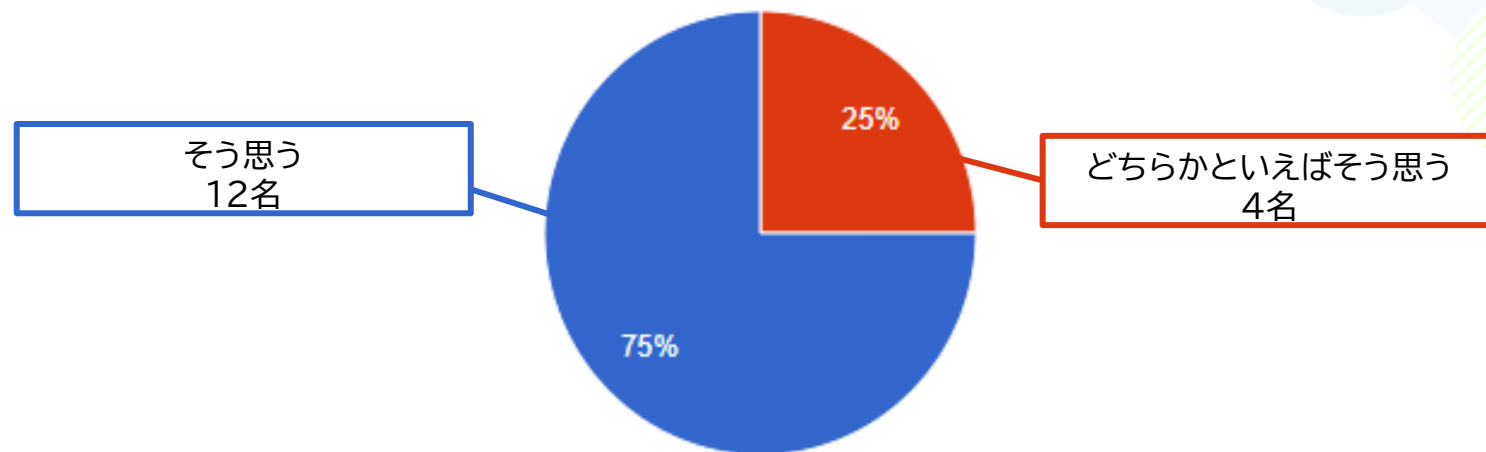


Q2:本日の意見交換会は、今後、働き方改革を推進していくための、産婦人科における必要な取組や課題を認識及び共有するのに有用でしたか。(回答数:16)



アンケート結果

Q3:本日の意見交換会で、働き方改革に対するあなたの意識は高まりましたか。(回答数:16)



今後の展望

今後は、今回の意見交換会で出た意見を踏まえて、医師事務作業補助者や看護補助者の活用をより推進していきたいと考えている。また、他部署・他職種で重複している業務が可視化されたため、これを整理統合して効率化を図り、医療技術者にはそれぞれ専門の医療行為に専念してもらえ、環境づくりの実現を目指していきたい。